

第五十七表 千島噴火

年月日

同上(西曆)

記事

國後島秩別村シユマノボリ山

(北海道志)

明治十三年六月四日

一八八〇^年六月四^日

シユマノボリ硫黃山噴火シ、是日暴風烟焰四散ス後十餘日ヲ經テ火滅ス。

擇捉島チルプ山

(明治二十四年十二月編輯神保博士「北海道地質報文」)

文久年間(?)

一八六〇年頃(?)

島ノ西北海岸「シヤナ」市街ノ西北ニアリ、三十年前ニ噴火セルガ如シ。

擇捉島モヨロ山

(神保博士「北海道地質報文、石川、横山兩氏北海道驛鑛山調査報告」)

明治十六年二月廿九日

一八八三 二二九

モヨロ山ハ島ノ東北隅ニ在リ山上三峯ニ分レ麓ニ孤立セル一小火山ヲ「ボンヌブリ」ト稱ス、明治十六年二月二十九日拂曉破裂シ多量ノ砂石ヲ迸發セシモノニシテ頂上ニ近ク周圍凡百五十間ノ噴火口アリ、當時岩礫ハ飛散シテ其山麓ヲ圍繞スル平地ト湖畔ニ達シタリ。

得撫島(噴火?)

(明治二十七年十月十三日根室毎日新聞)

明治廿七年七月廿五日

一八九四 七二五

七月二十五日千島廻リ川崎船ノ床丹ニ碇泊シ矯龍丸ノ入港シタル前後一日温泉崎ノ上手ニ於テ黑煙ノ烈シク上ガルヲ見、翌朝砂ノ如キ灰ノ船板ニ積ムヲ見タルガ、夫ヨリ進ンデ乙今前ノ灣内ニ繫リシ時又モヤ烈シキ

年月日	同上(西曆)	記事
		音ヲ發シテ硫煙天ヲ覆フテ上リ、同船ハ煙ヲ避ケテ急ニ出帆セシ事アリシガ、或ハ硫黃山ノ新噴火ニアラザルカトイヘリ。
大正三年六月四日	一九一四年六月四日	<p>新 知 島 新 知 山</p> <p><small>(汽船越後丸ノ報告ニヨル同船ハ當時新 知 島ノ東南約十四海里ノ沖合ヲ航行中ナリキ)</small></p> <p>午後五時五十分頃新 知 山ノ中腹爆發シ續キテ同五十八分第二回ノ爆發アリ熾ニ黒烟ヲ噴出シ、同六時三十分ニハ黒煙ノ爲メ山影ヲ没シ、同三十四分ニハ甲板ニ約一分ノ降灰アリタリ</p>
明治三十九年六月	一九〇六年	<p>溫 禰 古 丹 島</p> <p><small>(明治三十九年七月十五日函館日々新聞)</small></p> <p>軍艦武藏ハ北海警備トシテ去ル六月中北千島ヲ航行シタルニ千島列島溫禰古丹島ノ北端近傍ニアル「ネモ」山ノ山頂東南側下邊ノ噴火口ヨリ硫氣ヲ噴キ出シ今猶盛ニ噴出シツ、アリト同艦航海長ヨリ其筋へ報告セリ。</p>
安政年間	一八五四乃至五九	<p>幌 筵 島</p> <p><small>(日本水路誌ニヨル)</small></p> <p>幌筵島内ハ山嶽多ク數座ノ雄大ナル火山アリ其ノ最モ秀拔ナルハ「シリアシリ」山ト稱シ同島南西側ノ小半島ヲ占メ高サ六九〇〇呎ノ孤立圓錐峯ニシテ其ノ海方ニ面スル處ハ懸崖絶壁ヲ成ス。此ノ山ノ東北東約十哩ニ「ジャコムシナ」山一名「チクラ」峰アリ、高六四〇〇呎ニシテ安政年間噴火シ今尙ホ山ノ北陂ニハ硫氣ノ立ツヲ見ルト云フ。</p>